



今年8月から11月にかけて、県内の家畜保健衛生所職員等を対象とした病性鑑定診断技術研修会を全3回(計5日間)実施しました。

この研修会は、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱及びアフリカ豚熱等の重要な家畜伝染病が疑われる症例に対し、適切に対処するために必要となる知識と技術の普及を図り、迅速・的確な診断及び初動防疫体制の確立に資することを目的としています。

研修会の講師は、病性鑑定課の職員が務め、新採用職員を中心とした若手職員のほか、食肉衛生検査所の職員を含めた延べ60名ほどが受講しました。

今回はこれら研修会の概要を報告します。

1 病性鑑定の基本的留意事項、炭疽及び口蹄疫の診断(8月29日、30日)

県内で発生した豚熱の防疫対応のため延期され、例年より遅れての開催となりました。

まず、病性鑑定を実施する意義、進め方や方法に関して留意すべき事項について、事例とキーワードを交えながら共有されました。また、検証やとりまとめによる情報発信の重要性も改めて周知されました。

炭疽は、病性の理解のみに留まらず、県内発生の歴史を振り返りながら、適切な対応と迅速な診断が重要であることが講義されたほか、本病が疑われる場合に、誰もが迅速な診断を行えるよう診断実習も行われました。

口蹄疫の発生は、2010年以降、国内での発生はありませんが、近隣諸国においては継続して発生が認められていることから、本病が疑われる疾病発生時の立入検査の進め方、留意点等について共有しました。また、今年11月に国内で初めて発生したランピースキン病についても、疑われる症例の特徴とその病性鑑定時の対応について確認しました。

2 高病原性鳥インフルエンザ(10月16日)

本病の基礎的知識、通報受理時の留意事項、類症鑑別を座学で行ったのち、解剖の手順、検査材料の採取方法、簡易検査キットでの判定等は、実技での研修が行われました。

本病の流行シーズン直前となり、死亡羽数が増加し、本病が疑われる場合には、誰もが、農場内において一次的な診断(簡易検査)を行う可能性があるため、真剣に受講する様子が見られました。

関連した話題として、米国の「乳牛における高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染」について、最新の論文から引用した成績が紹介され、本病の病態への知識を深めました。

3 豚熱及びアフリカ豚熱の診断、症例検討会(11月28日、29日)

豚熱及びアフリカ豚熱の診断(1日目)では、両疾病の特徴や病性鑑定の進め方のほか、今年5月に県内で発生した豚熱の事例について、各種検査成績を共有しました。また、発生農場管轄家保職員から発生の状況から防疫措置までの説明が行われました。本研修の中では、豚の解剖手順と材料採取の方法が、わかりやすく編集された動画を用いての講義がありました。

症例検討会(2日目)では、①豚の流行性脳炎、②鶏の *Enterococcus cecorum* 感染症、③若齢牛の牛伝染性リンパ腫、④牛のデルマトフィルス症、⑤牛の伝染性角結膜炎、⑥放牧牛のミネラル調査に関する報告があり、参加者間で防疫対応や成績が検討されました。意見交換が活発に行われたほか、成績のまとめ方についてのアドバイスもあり、有意義な検討会になったと思われました。

※「病性鑑定通信」は、当所で実施している病性鑑定から、今後の診断の参考になる症例、注意喚起等が必要な情報等をまとめたものです。なお、中央家保ホームページには、過去の記事も掲載しています。

「病性鑑定通信」へのリンクは↓こちら↓です。または、「岩手県中央家畜保健衛生所 病性鑑定通信」で検索してください。

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/desaki/chuuou/1008059/1047433/index.html>